

はじめに

平成元年度の業務概要と調査研究等を取りまとめた年報をお届けします。

当研究所は、昭和46年創設以来、大気、水質、騒音振動等の公害行政の科学的裏付けとなる調査研究を主に行ってまいりました。今回報文としてまとめたのは、日頃の工場等立入り、環境の実態調査、あるいは試験分析業務の中から技術的な研究検討を加えたものをあげております。

この報文のほかに近年、全国的に社会問題化している先端産業からの有害物質あるいは、ゴルフ場からの農薬等による環境汚染、さらに酸性雨やフロン等の実態調査等も取り組んでまいりました。

このような未規制物質や地球規模の環境汚染問題への対応は、地方公害研究所としてもますます重要になっており、今後なお一層新たな課題に積極的に挑戦する調査研究を心掛けたいと考えております。そしてそのための日頃の研鑽と施設、体制の強化整備に努めてまいる所存であります。

なお本年度の資料の一つに加えましたが、平成元年度は財団法人大気汚染研究協会主催による第30回大気汚染学会が川崎市において多数の方々の参加を得て盛大に開催されました。この記念すべき学会のお手伝いに関与できたことは大変光栄なことであります。ご協力下さいました方々には深く感謝申し上げます。

今後とも関係各位の一層のご指導と、ご支援をお願い申し上げます。

平成3年3月

川崎市公害研究所長

福 満 博 視